

大衆的でありながら  
社会問題も  
人生の悲喜も

ある劇作家の戯曲集が、  
日本ではまだ刊行されてい  
ない限り、イタリア会館  
・福岡の館長ドリアーノ・  
スリスさん(65)「福岡市」  
の心は躍った。「適切な訳  
で戯曲集を出そう。きっと  
日本でも彼の世界に親しん  
でもらえる」。イタリアで  
は誰もが知っているのに、  
日本ではあまり知られてい  
ない彼——劇作家で、俳優や

詩人でもあるエドゥアルド  
・デ・フィリッポ(190  
0~84)の世界を伝えるた  
めに。

邦訳戯曲集の刊行を10年  
前に着想したが、共訳者が

見つからず、思いはしほみ  
そうになった。時を経て、  
デ・フィリッポの世界をよ  
く知る大西佳弥さんと出会

い、今年5月、共訳で念願

の戯曲集(全5巻)の1巻目

を刊行した。より立体的に

作品世界を楽しめるよう、

当時の劇場公演映像も収め

たDVD付きの豪華本だ。

デ・フィリッポは20世紀

イタリア演劇界の巨匠で、

ストロヤンニとソフィア・

スリスさんもまた、彼に

中で盗みに手を染めざるを

得ない青年の恋や心情を描

きつつ、やがて信仰心とは

何かをも示そうとする。

映画監督のフェデリコ・

フェリーニは、ファシズム

に沸き立つ37年のローマで

かれ。1巻目『デ・ブレ

トーレ・ヴィンチエンツ

オ』は、デ・フィリッポの

故郷ナポリが舞台。貧困の

たと振り返っている。

スリスさんもまた、彼に

手がけた。半年に1回のペ

ースで刊行していくつもり

だという。(大矢和世)

大衆的でありながら  
社会問題も  
人生の悲喜も

イタリア会館・福岡

ドリアーノ・スリス館長



エドゥアルド・デ・フィリッポの肖像画と共に。「1巻目に選んだ作品は、ナポリの姿を鮮やかに描いている。エドゥアルドが手を握ってナポリの街を案内してくれるよう」と話す、イタリア会館・福岡ドリアーノ・スリス館長

## 文化

ファックス  
092(711)6243

メール  
bunka@nishinippon.co.jp

心をつかまれた一人だ。もともと「誰もが好きで当たり前な人」という認識はあったが、71年に初めて観劇し「演技が中断するほど、何度も拍手が起きた。誰でも劇に引っ張り込まれてしまう。衝撃だった」。4日連続で足を運び、見るたびに新たな印象を残すのも驚いたといった。『アントラーニの結婚』の原作となつた「フ

ローレンの共演映画『あゝ』は、いわゆるインテリのた

めのもの。もう一つは大衆

が娯楽で楽しむもの。彼の

作品は大衆的でありながら

陳腐さはなく、社会問題も

人生の悲喜も織り込まれて

いる」と独自性を語る。

例えば、マルチエロ・マ

トリ・ヴィンチエンツ

オ』は、デ・フィリッポの

故郷ナポリが舞台。貧困の

たと振り返っている。

スリスさんもまた、彼に

手がけた。半年に1回のペ

ースで刊行していくつもり

だという。(大矢和世)

◆『エドゥアルド・デ・フィリッポ戯曲集①デ・ブレトーレ・ヴィンチエンツオ』はイタリア会館・福岡刊、4725円。同会館=092(761)8570。